

IV 自由記述

今後の公民館のあり方

- ・「まなぶ」を中心に、「つどう」「むすぶ」役割を果たす公民館のあり方を考えなければならない。
- ・豊かな心を育み、地域の絆を深める公民館でありたい。
- ・広く公民館を開放し、互いに学習できる環境づくりを目指している。
- ・人権の視点を大切にしたい、生涯学習の拠点としての公民館のあり方を考えなければならない。
- ・多くの方が、より気軽に使える施設であることを周知することが必要と考える。
- ・最も身近な学習の場として、講座の充実を図り、若い人にも利用してもらえる公民館となっていきたい。
- ・着物も心も普段着のままでも来場できる場づくりに心がけたい。
- ・誰もがちょっと立ち寄ってみたい、魅力ある公民館づくりを行いたい。
- ・ふるさと、健康、生きがい、絆を大切にしたい。
- ・公民館としての位置づけ等、この現代に沿う公民館のあり方へと移行して行くべきではと思う。
- ・公民館から地域へ出向くような柔軟な姿勢も必要である。
- ・地域の方、講座生の方が気軽に立ち寄れる公民館になればと思っている。公民館活動を通じて、学びの環、共に支え合う人の和、豊かな心、健やかな毎日を過ごす元気の輪が地域に広がっていきけるよう頑張っていきたい。
- ・公民館には、放課後、児童生徒たちが三々五々集まってきている。学校と家庭の中間点でリラックスできる場ではあるが、無為に過ごすのではなく、何かをつかんでもらえるような場にしたいと常々考えているところがある。
- ・類似した活動が各団体で展開されており、「公民館活動」の独自性が問われている。今一度、活動の原点に立ち、「公民館」のあり方について見直しせねばならない。長年の活動で培ってきた「公民館への信頼」を大きな財産として次のステップを目指したい。
- ・少子高齢化問題、地域防災、人権問題など地域課題の解決のため、市民にどう公民館を活用してもらおうかなど公民館のあり方が課題となっていると思う。
- ・共働き世帯が多い現状を踏まえ、子どもたちの居場所、自主学習ができる場の提供が必要と考える。
- ・様々な公民館活動を実施していく上には、地域住民の高齢化と過疎化、子どもたちの減少、地域へ集まる手段等、どのように公民館が対応するかが、当面の課題と考えている。
- ・より多くの住民、各種団体の公民館活動への参画を促進するとともに、地域の様々な団体や住民がつながり、世代や分野を超えた交流による協働が推進される「地域のプラットフォーム」としての学びの場をつくる。
- ・運営上の課題としては、施設の老朽化や、新規講座生の獲得、新規講座の設立、生涯学習の広がりが不十分である等が挙げられる。
- ・公民館に対するニーズは、時代や起こる事象によって変化し、できることは限りなくある。公民館講座で個人の教養を高めることに留まることなく、地域課題を学び課題解決のために住民が行動すること、地域の教育施設とつながって次世代を育てていくこと等、草の根レベルで住民が動いて地域を活性化する拠点となるのが公民館である。その点を踏まえて、公民館に配置する人員、スタッフの研修、資金の手当てを行っていく必要を感じている。
- ・少子高齢化に伴う人口の大幅な減少という日本の人口動態から生ずる課題に視点を当てた上で、地域の「生涯学習」のあり方についての大幅な見直しと再構築が喫緊の課題であると考えている。
- ・公民館は、地域の生涯学習の拠点としての位置づけに加えて、最近ではまちづくりの拠点としても期待されている。公民館のあり方は地域のニーズを反映することになるが、公民館の負担を考慮しながら進めることも必要ではないかと感じる。
- ・岡山市の公民館は、社会教育法の目的を達成するため、ESDの視点で身近な地域の課題からSDGs（持続可能な開発目標）とつながる世界的な課題までの幅広い分野を対象に、地域住民の主体的な学びと実践の機会を提供し、持続可能な社会づくりにつながる人材を育成している。

- ・公民館の役割、立場がどこにあるのか。常々感じる日々の中、地域や公民館によって、それぞれ多少違うと思う。全ての館が、全て同じではないと感じている。もちろん良いこと、参考にして当館でもできそう、やってみようといったこともあるが、これも全てそうではないと感じる。当館は市内でも、田舎の場所にあり自分の地区に沿ったやり方をメインに、講座・教室等だけにこだわらず、いつでも、誰でも気軽に公民館に寄ってみようかと思ってもらえる公民館でありたい、と考えている。人が集まればアイデア等も出て、次回、小さなことでもやってみようか、となることも考えられる。ただ、従来の講座・教室のメンバーの高齢化、新規加入が少ない点もある。

住民との関係づくり

- ・地域住民の皆さんの顔が見える関係を、公民館を通じて構築することが大切である。
- ・地域コミュニティの拠点としての公民館のあり方を考えなければならない。
- ・地域の様々な専門機関とつながりを持ち、地域の実情に応じた支え合いの仕組みをつくるため、学びの場づくり、関係づくりを行うことが大切である。
- ・地域にもっとも近い行政機関として、地域の人たちとつながり、活性化の拠点として生涯学習を支えていく機関であるべきである。
- ・地域の老若男女、特に高齢者と園児、児童、生徒が、生涯学習として交流できる場所づくりを目標にして、事業の企画を行っている。
- ・高齢化、少子化が公民館の運営に大きく影響している。その流れを断ち切るためには地域外の団体との関わりを増やしていかなければと思う。人と人の交流をどんどん増やせる公民館にと日々活動していきたいと思う。
- ・少子高齢化の引き起こす様々な地域課題の解決に向けて、住民の知恵と力を結束して協働できるネットワークづくりの拠点としての役割を担っていくことが、今後ますます求められると考える。
- ・地域コミュニケーションの拠点としての公民館運営を行うことが必要不可欠であると考えます。
- ・地域が高齢化していく中、住民が支え合い助け合う関係を築いていく中心に公民館があればいいなと思っている。様々な行事を通して、より多くの人に参加してもらい、お互いのふれあいを大事にして、ひとりでも引きこもる人をなくし、人々の生活の交流の場として手助けできたらよい。
- ・今年のような大きな災害を経験し、防災の観点からも地域のつながりの大切さを感じた。しかし、高齢化と人口減少の中で、いかにして地域のつながりを保っていくかは課題である。
- ・幼稚園閉園状態、中学校の統合に伴い、現在小学生8名となっているのが現状であるが、ますます地域との関わりをもつべきと考えている。

地域の課題解決

- ・社会の変化に伴い、生涯学習のみならず、地域づくりの活動拠点として地域の様々な課題に取り組む必要性が高まっている。
- ・今後、公民館が取り組むべき地域課題は、ますます多方面にわたってくると思われる。様々な機関と連携を取りながら課題解決に向けて取り組んでいきたい。
- ・幼い頃から自然や植物に触れたり、ボランティア講師の指導を受けたりすることで、郷土愛が芽生えるきっかけになると思われる。
- ・時代の流れとともに、公民館に求められるものも変化しており、これからの公民館には、単に学習機会を提供する施設としての役割ではなく、地域づくりの拠点としての機能が求められていると思う。公民館が地域と連携し、地域の特色を生かしたまちづくりを進めることで、地域課題を解決したり学習成果を地域に還元したりすることは可能であると考えており、講座開講においてだけでなく、事業全般にわたって心がけたい課題である。
- ・当公民館は、高齢化率50%を超えた地区にあるため、以前のような学習機会の提供よりは、誰もが安心して毎日を暮らせる生活状況確保の地域課題解決に取り組むように年々なっている。地区の活動拠点としての公民館の役割は、その地区の実情に合わせてすすめて行く必要性があり、勤務している者として、少しでも役に立てるように地域に寄り添って活動をしていきたいと考えている。

公民館の体制の見直し

- ・現在、地区館等が担っている委託事業の見直しが必要である。
- ・利用しやすい公民館として、開館日、開館時間等も見直す必要がある。
- ・社会教育法、および公民館条例等の改正を行い、広い範囲が使用できるよう緩和してはと考える。使用状況から、運営管理を民営化できないか。
- ・公民館施設内に地域コミュニティ組織が活動拠点を設置する場合の社会教育法に基づく公民館利用の適合性を考えなければならない。
- ・このアンケート内容からも伺えるように、これからの公民館の果たす役割は大きくなっている。そのためには、公民館職員の身分保障や報酬等を各自治体任せにするのではなく、県下で統一的に考えていく必要がある。
- ・まちづくりと公民館活動の区別がよく分からないが、公民館活動は予算が少ないため自主活動が求められる。まちづくりの方は予算が大きいためそちらでの活動が優先となる。まちづくりの中の公民館活動か、公民館活動の中のまちづくりなのか理解しにくい。
- ・予算が少ない。高齢化により講座や公民館活動の参加者が減少している。
- ・少ない予算の中で、講師、指導者の確保が難しい。
- ・当館は、貸館中心の運営が続いており、社会教育としての事業ができるよう方向転換をしていきたい。
- ・地域住民の高齢化も深刻な課題であり、公民館施設利用者も年々減少しているため、公民館の統廃合を考える必要があるのではないかと。
- ・過疎化、高齢化が進む中で公民館の役割も変化している。社会教育法で公民館を管理することは地域の要望と実態にずれがある。
- ・これから少子高齢化が加速する状況の中で、公民館が地域の中で住民の心の核となり、幸福感を持続させながら暮らせるような働きができるのか、またその方策を、予算を含めて市全体で考えて行く必要があると考える。身体の機能保全や回復訓練等も遠くへ行かなくても地域の公民館であれば、今後増加する高齢者にとっては、大変ありがたいと思う。誰に何を提供できるのか、施策として進めることが今、求められている。
- ・人員不足、予算がないため、公民館独自の事業は実施できない。今まで以上に、まちづくりと協働して地域の活性化を図ることが重要である。高齢化社会の中、地区社協と協働でお助け事業や健康寿命を伸ばすためのミニデイサービスの事業を増やしていくことも考えていく必要がある。
- ・倉敷市では、ライフパーク倉敷市民学習センターを核にして、倉敷、水島、児島、玉島の4基幹公民館及び24の地区公民館が設置されているが、今後はそれぞれの役割分担をより明確にして、各種講座等の事業を行う必要がある。具体的には、市民学習センターは中核施設として先進的な事業を行い、地区公民館は地域に密着した事業に取組、基幹公民館は各地区の特性に応じた多様な事業を推進すべきであると考え。
- ・倉敷市の公民館は社会教育、生涯学習を推進しているが、講座に関しては「いざない」等でたくさんの方の目にとまり、応募して定員を集めることができている。しかし、グループ活動に関しては館内で工夫し、チラシ等で募集をかけているが、なかなか会員を増やすことができない現状であるので、人数が減少していき、グループの存命の危機が迫っている。何とか広報その他で住民にお知らせできる方法に変えていってほしい。
- ・笠岡市の公民館は、小学校区毎に1館ずつ地区館があり、地元住民との関係が濃いことが長所である。しかし臨時職員並み以下の週5日、20時間勤務の主事と非常勤の館長しかいないので、長期の企画、運営等ができていく体制になっている。また、地区内諸団体の事務処理等の委託も多い。生涯学習としては自主講座に負うところが多い。

研修に対するご意見

- ・まちづくり委員長と市民センター館長を兼務している公民館長と市街地の中央公民館等の公民館長とは、明らかに活動が異なっていると思う。研修の機会があるたびに発言しているが、残念ながら地域の公民館の出席が少ないのは、実情にあった研修内容になっていないことも原因の一つになっているのではと思う。
- ・公民館の運営委員等を次の世代にスムーズに引き継ぐためには、どのような取組をすればよいか岡山県公民館連合会事務局からのアドバイスがほしい。

情報発信

- ・特に、今後地域を担って立つ40～50代の次世代が活動の拠点の一つとして公民館を利用するためには、SNSをはじめとした広報手段をもっと充実させ、公民館を理解してもらう必要がある。
- ・SNS等を活用し、公民館にもっと興味を持ってもらいたい。
- ・ホームページでの情報発信の強化や、他課が行うイベント等での公民館事業をPRする。
- ・地域住民の学びと交流拠点としていくため、多くの情報を発信できるよう活動したい。
- ・住民自身が地域づくりをすすめていく上で必要なサポートや支援を行っていく。たとえば地域課題の把握や共有、課題解決のための学習、取組をすすめるための情報提供や広報等は必要である。
- ・今後は、少子高齢化に伴う様々な課題をにらみながら、持続可能な地域づくりが重要となる。公民館は、そのための起点となるような事業の実施や情報発信もできるようにしていく必要があると考えている。
- ・公民館施設の活用は高齢世代が中心で活発である。しかし、次世代層以下の活用状況はあまりない。こうした層をターゲットにした企画を実施して公民館の魅力を発信することが大切である。

国際交流

- ・外国人労働者の大幅な増加に伴う国際交流の推進により、共生社会の実現を目指す方向へ進む必要があると感じる。
- ・外国人受け入れ対策に関する小中学校等での指導、日本語を学ぶ環境づくり等を考えていきたい。